

山行番 NO. 1658
日時 2015. 10. 03 (土) ~ 05 (月)
山域 北ア・五竜岳 (2814m) ~ 鹿島槍ヶ岳 (2842m)
参加者 後藤、浜道、掛橋 = 3名

「びっくりぽん」三昧

1日目 = 10. 03 (土・快晴)

コース 下土狩発 4:00 - 甲府 - 安曇野 - 神城・白馬五竜テレキャビン 8:13 - 登山リフト最終発 8:49 - 中遠見山 10:24 - 大遠見山 11:12 - 白岳 (しらたけ) - 五竜山荘着 13:03 (泊)
標高差 上り = 登山リフト終点約 1640m ~ 白岳 2541m = 約 901m
下り = 殆どない

今回の登山計画、昔 (調べると 2006 年 9 月 23 日 ~ 24 日) 登った五竜岳の頂上から鹿島槍ヶ岳を見た時に、一度は登ってみたいと思っていた山、そんな山に行けるなんて「びっくりぽん」。まんま (すごく) 楽しみにしていた。

しかし、その当時に仲間から、五竜岳から鹿島槍への縦走はかなり厳しいと聞いていたのを思い出した私は、計画書をもってから、いつもより念入りに下調べをしていた。

前日の夜、仕事から帰ると、旦那が稲荷寿司 (稲荷の皮は市販品) を作ってくれていた。「びっくりぽん」。日頃から山の行動食には稲荷がいいらしいというのを覚えていてくれたせいか、旦那の気持ちに大変感謝している。早速、稲荷寿司を容器に積み、自分で用意した行動食、準冬山装備、アルコール、ヘルメット等でザックは、直ぐにいっぱいになった。早く寝なければと思うほど、ワクワク感と緊張感のせいかなかなか寝付けずにいた。それでも眠れていたのであろう、目覚ましの音で目が覚めた。どれくらい眠れていたのであろうか？

装備追加されたピッケルを掴み、いつもの待ち合わせ場所に向かった。G殿が運転する車が到着すると早々と乗り込んだ。私は、菰釣山以来の山行で一ヶ月ぶりだった。そんな話がでると今日からの山行に少し不安が過ぎたが、この頃は、まだまだ、楽しみが勝っていた。昨晚の悪天候が回復し安心していたが、山梨に入った頃には朝霧に覆われてきた。G殿の「朝霧は天候が良くなる兆し」、言葉どおりにアルプスの山々が見えてきた。

G殿の運転する車は順調に白馬五竜テレキャビン駐車場に着いた。この3日間は好天の予報だったため、装備追加のピッケル、アイゼンは持参しないことになった。更に荷物を少なくするために、900ml の焼酎を置いてくことになったが、その代わりにビール2本が追加となった。ゴンドラ前で荷物の計測をしたが、全員 10kg 以上だったため、荷物料金を払うこととなった。そして、ゴンドラとリフトを乗り継いで、標高がだんだん高くなるたびに、白馬三山から続く絶景も堪能できた。(この時、白馬三山から唐松岳の縦走をいつかはやってみたいと思っていた。)

リフトを降りたところに、奇妙な機械を持った男性がいた。G殿がゲットした情報によると、グーグルアースに載せるための撮影とのこと。映りたくなければ、離れて歩くようにとのことだった。(私たちはその後、この男性に会うことはなかった。) 小遠見山まではハイキングが出来るとあっ



秋日和



グーグルさん

登山道修理の方



逆さ五竜



鹿島槍



美しき山々



て、ここには人が多かった。

私たちは、トイレを済ませ、遠見尾根から今日の目的地である五竜山荘に向かった。紅葉はすでに終わっているだろうとの予想に反して、紅葉真っ盛りの登りやすい道を進んで行った。地蔵の頭を過ぎ、狸のドラ、兎のドラ（なぜかこんなところに？）を過ぎ、私はザックの重さを感じることなく、順調に中遠見山への分岐から五竜岳方面に向かった。ここまで約1時間経っていたが、私たちは休憩を取らずにどんどん進んで行った。紅葉した木々の向こうに五竜岳、鹿島槍が聳えている。この絶景を撮らずには要られない。私は、何度も足を止めて、写真に収めた。私は、まだザックの重さは感じられないでいた。

中遠見を過ぎて少し歩くと、鹿島槍北峰が姿を現し、ようやく鹿島槍らしい姿になってきた。この辺で、初めての小休憩を取ることになった。ここからは富士山も見えていた。私は昔登ったときも富士山が見えたことを思い出していた。（石川県に住んでいた私は、初めて見た富士山に感動していたのを思い出していた。）景色を眺めながらの「愛情」の詰まった稲荷寿司は、とても美味しかった。しかし、近くに蜂がやって来て、早々にその場を去ることになった。せっかくの稲荷寿司をもっと食べたかったが、残念。そう思いながら、仕方なく歩き出した。

大遠見の池に映った、逆さ五竜岳が美しかった。このなかなか味わえない景色に、「びっくりぼん」だった。ここでは何人も人が休憩していた。コンロを囲んで賑やかだった。これもこの絶景のおかげだろう。皆、私と同じく今日の絶景に「びっくりぼん」なのだろう。

西遠見を過ぎると「細尾根、ザレ場、クサリ場」の注意を促す看板が立っていた。ここまでが歩き易かったため、忘れかけていた今日からの山行の厳しさが頭を過ぎった。この時には、今日泊まる五竜山荘が見えていた。登って行く経路が良く見えた。ここからまだ1時間以上掛かるとのこと、足元に注意しながらも、変わらない絶景を仰ぎ、何時間前かにいた、リフト下り場までの、遠くに伸びた遠見尾根道を振り返った。この景色を堪能しないなんてもったいなかった。私は今日の終わりが近づいていることを少し残念に思っていた。

白岳があるはずが、直ぐに分からなかった。何の表示も無かった。今日の最高到達地の予定だったので、H姫と「白岳無いね」と言いながら歩いた。振り返ると、何か石碑のようなものがあつた。G殿はもう随分先を歩いて行った。ここは風が強く、私たちのG殿を呼ぶは聞こえていないようだった。H姫のG殿に石碑に戻ると伝えてくれると言う言葉に甘えて、私は戻って石碑のところに行ってみた。それは「山」だけ書かれたものだった。標高も何も書かれていないが「山」とだけあつた。白岳からは、昔登った唐松岳からの縦走路が見えた。今日初めてみた唐松岳方向を見て、その当時、唐松岳からの山行が私にはとても苦しかったことを思い出していた。（実際、一番厳しかった山行を聞かれた時にそう言った覚えがあつた。）それに比べると、今日の私は、何故か、まだまだ元気だった。そして、まだまだ景色も堪能していたかったが、風の強さに寒さを感じ、山小屋に向かうことにした。その寒い中でも、あまり足が進まなかった。今日の絶景に「びっくりぼん」。改めて今日の辿った道を思い出しながら、今日の山行が終わってしまうのを寂しく思い、ゆっくり山小屋へと下って行った。

小屋の前に着くと、直ぐに中に入った。案の定、既に、2人は山小屋に着いていて、H姫は宿泊の手続きをしてくれていた。（いつも感謝です。すみません。）その姿を見て、私は、まだ登ってもない五竜岳の登頂証明書を見つけ、H姫の分も確保した。（この時、この好天に明日の天候のことなど何も考えていないのんびりした私はもう登頂した気持ちになっていた。）

部屋はG殿の尽力のおかげで個室だった。夕飯までの時間があつたため、のんびり過ごすことが



白岳上り



白岳上り



白岳 (しらたけ)



武田菱



五竜小屋



五竜小屋個室

出来た。外は風が強かった。テントがかなり揺れていた。まだ強風のテントでの一晚を過ごすことを経験していない私は、山小屋泊の有難さを感じていた。夕暮れが迫った頃、男女が同じ部屋にやって来た。今日は混んでいるらしい。既に他の個室もいっぱいだった。この男女の仲間1人は買ったばかりのテント泊だと言っていた。強風、寒さが厳しかったに違いないだろう。

私たちは夕飯までの間は、持参したアルコールで過ごしていた。五竜岳の雪渓が武田菱になるとのこと。その雪渓を見ることは今の私には難しいと思っていた。日没が近づくと、私は外に出たが、風が強くあまり長くは居られなかった。それでも、少しは沈んでいく太陽を見ることが出来た。

寒さに負けてから山小屋に入ろうとすると入り口の武田菱が大きく目に映った。(大きく映ったのは何か違和感があったのか？調べると2006年には入り口に武田菱のマークは無かった)

部屋に戻ると早々に夕食となった。夕食のカレーは美味しかった。私はルーだけのお代わりもした。夕食を終えると、明日の山行を考え、早々の就寝となった。私はシュラフカバー（石井スポーツでお支払い代金2万円なり、旦那青く、おな〜り）を持っていたため、寒さを感じず、かなり熟睡が出来て「びっくりぼん」。

その他の記述（後藤）

1. 遠見尾根下部で、鉄材を背負子で上げる男性に抜かれた。鉄材は、登山道を修理する資材という。重量は、20Kgあるそうだ。五竜小屋関係者でないが、時間がある地元の方。ボラで尾根修理を手伝っているという。遠見尾根は、花崗岩が風化した脆い土。至る所で崩壊している。ご苦労様です。
2. 白岳（しらたけ・2541m）の上りは厳しい。1981年12月末と82年12月末、ここを上ったが、雪崩の恐怖だった。前者は、五竜に登頂できず、後者で上った。久しぶりに、ここを訪れたが、当時、どうやって上ったか定かでなかった。五竜も厳しかった。二度と上りたくない山だ。
3. 小屋で350m | ビア一本、サービス券をくれた。我々だけ??!!
4. 個室に後から来た男性が、「五竜の下りは、気を付けて下さい」と何回もいった。素人に見えた??
5. 朝食時間を早とちりで誤った。しっかり確認すべきだった。

参加者ひとこと

後藤 「白岳の上りは夏でも凄い。冬、ここを上ったことが、信じられなかった」

浜道 「紅葉の素晴らしさに、上りの大変さを忘れてしまいました」



夕食カレー



個室から五竜・実際は強風